令和７年度　城山東小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤として，自らの向上とよりよい社会への発展に寄与するため，主体的に生きていくことができる，心身ともに健康でたくましい人間を育成する。

具体目標（子ども像）

〇心豊かで思いやりのある子（豊かな心）　〇よく考え進んで学ぶ子（確かな学力と創造性）

〇健康で明るい子（たくましい健やかな体力）　〇根気強くがんばる子（あふれる気力・実践力）

〈スローガン〉　「ふれあい　つながり　学び合う　城山東小学校」

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人の能力を伸ばし未来をたくましく生き抜くための基礎となる力を培うために，保護者や地域との連携を図りながら，教職員が協働して，知・徳・体の調和のとれた教育を推進する。児童と教職員がふれ合う中で，よさを発揮し生き生きとして輝ける学校，つまり，児童にとって「行きたい学校」，保護者にとって「通わせたい学校」，教職員にとって「勤めたい学校」を目指す。

（１）目指す学校像　…　温かさと活気に満ちた学校，安心・安全な学校，地域とともにある学校

（２）目指す児童像　…　心豊かで思いやりのある子，よく考え進んで学ぶ子，健康で明るい子，根気強くがんばる子

（３）目指す教職員像　…　人間性豊かで信頼される教職員，児童とともにある教職員，学び続ける教職員

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

（１）児童が持続可能な社会の担い手となるよう，教育活動のさらなる質の向上と教育効果の向上を目指す。

（２）「心豊かで思いやりのある子」を育成するため，自己肯定感を高める取組や認め励ます教育を推進する。

（３）「よく考え進んで学ぶ子」を育成するため，学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け，思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。

（４）「健康で明るい子」を育成するため，健康で安全な生活習慣を身に付ける指導と，体力・技術の向上を図る教育活動を推進する。

（５）「根気強くがんばる子」を育成するため，目標に向かって粘り強くがんばる活動や，自らの成長を振り返る活動を充実させる。

（６）教職員が倫理観と使命感をもち，資質・能力向上のために自己研鑽に努め，児童一人一人を大切にした教育活動を展開し，誰からも信頼を得られるように努める。

（７）職務の遂行に関しては，業務の効率化や職場環境の改善の取組を推進するとともに，教育の質の向上を目的とする，働き方を心がける。

（８）魅力ある学校づくり地域協議会の組織等を活用し，地域とともにある学校づくりを推進する。

（９）〇城山地域学校園の連携による義務教育９年間を一体とした指導を推進する。

【城山地域学校園教育ビジョン】ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

学校園内小中学校が連携し合い，地域の教育力を生かしながら，「自他を尊重し，郷土に愛着をもち，諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

《スローガン》みんなで育てよう！自分を愛し，仲間を愛し，地域を愛する城山の子

４　教育課程編成の方針

（１）学習指導要領や第２次宇都宮市学校教委育推進計画後期計画等を踏まえ，児童の実態や地域社会の実情に基づき，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで，心身ともに健康で逞しい児童を育むことを目指し，特色ある教育の展開が図れるよう編成・改善に努める。

（２）基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた学習指導の充実が図れるよう，教育内容の質的な充実を目指した学習指導が展開できるよう努める。

（３）カリキュラム・マネジメントの視点に立ち，思考力・表現力と自己有用感を高めるために，各教科等の特質を生かすとともに，教科等横断的な視点で編成する。特に，人や社会と関わる力や表現力を育成するため，「大谷プラン」の充実を図る。

（４）教育活動に創意工夫を加えて，児童の主体的，実践的な活動を十分に生かせるように配慮するとともに，目標の重点化による教育活動の精選を行い，児童と向き合う時間や教材研究の時間を産み出し，教育の質の向上を図る。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

（１）学校運営
　〇児童や教職員が生き生きと活躍できる，居がいのある学校づくり
（２）学習指導
　〇自ら考えを表現し，共に学ぶ児童の育成
（３）児童生徒指導
　〇人との関わりを大切にし，豊かな心を育てようとする子供の育成
（４）健康（保健安全・食育）・体力
　〇自他の生命を大切にし，進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子供の育成

６　自己評価　A1～A20は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価 数値は肯定的回答率，（　）は前年度比 数値指標を達成した場合は，〇印
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①　発表や挙手の仕方，ノートの取り方等の「学習のきまり」を徹底し，学びに向かう環境を整えるようにする。 ②　「自ら考え学び合う子」を育成するために，１人１台端末等を有効に活用したり，「考えるための技法（思考のすべ）」を活用したりしながら，主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。 ③　児童の学習意欲を高めるため，教材教具や ICT 機器を効果的に活用するなど指導方法について工夫・改善を行う。	B	【達成状況】 児童　　87.9%（-4.2）　〇 教職員　100.0%（+10.5）　〇 ①　年度当初・長期休業明けに全校統一で「学習のきまり」の確認を行ったことで定着が図られた。 ②　児童の発達段階に応じて，１人１台端末を有効に活用し，主体的・対話的な授業の取組を行った。 ③　宇都宮モデル（「はっきり」「じっくり」「すっきり」）を意識した授業を実施することで，指導方法について工夫・改善を図った。 【次年度の方針】 ①　長期休業明けに「学習のきまり」の確認を行う。 ②　「自分の考え」を表現するために児童が１人１台端末のスキルの向上を図る。 ③　引き続き，教材教具や指導方法について工夫・改善を行う。

１－（２） 豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①　伝え合う力や自己を見つめる力を養えるよう，「考え，議論する」授業展開を工夫し，道徳の授業の充実を図る。 ②　縦割り班活動や縦割り班清掃など異年齢との交流では，活動の最後に称賛の場の設定したり，お昼用校内放送等で思いやりに関するコーナーを設定したりし，思いやりの心を育む。 ③　各学級の「ふれあいコーナー」などを活用し，児童が認め合うことにより，意欲を高める。 ④　全教育活動を通して，人権意識の醸成を図り，児童一人一人が互いに思いやり，相手の立場に立って物事を考えられるように指導する。	Ｂ	【達成状況】 児童　　93.5%（+4.0）　○ 教職員　93.8%（-6.2）　○ ①　道徳の授業の充実に継続的に取り組んだことで，児童が生活場面で思いやりある行動をとる姿が見られた。 ②　異年齢との交流を通して，互いに対する理解を深め，思いやりを育むきっかけづくりができた。 ③　ふれあいコーナーにありがとうの木等を掲示し，児童同士が認め合う環境づくりを行うことができた。 ④　全教育活動を通して，相手の立場に立って物事を考えられるように指導することで，人権意識の醸成を図った。 【次年度の方針】 ①　道徳の授業の充実を図ることで，児童の思いやりの心や判断力の育成を図る。 ②　縦割り班活動の充実を図ることで，児童の相互理解の機会を増やし，よりよい人間関係を育むことができるようにする。 ③　ふれあいコーナー（ありがとうの木等）を活用し，児童同士が認め合う環境づくりを行う。 ④　全教育活動を通して，人権意識の醸成が図れるような取組等を計画する。
	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 80%以上	①　キャリアパスポート等を活用しながら，学級活動で「学期のめあて」を掲示し，学期の始めに自分の目標を設定したり学期末に自らの成長や変容を振り返ったりする場を設定する。 ②　各教科の授業や各種検定，学校行事（児童会活動）等において，児童が目標をもって取り組むことの大切さに気付かせるとともに，目標の達成に向けて努力している児童を称賛する機会を設ける。	Ｂ	【達成状況】 児童　　86.0%（+2.7）　○ 教職員　83.8%（+20.1）○ ①　キャリアパスポートを活用して，「めあて」の掲示や目標の設定や変容の振り返りを行った。 ②　各教科の授業や学校行事等で，児童が目標をもって取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 ①　目標に対する自らの成長や変容を自覚できるよう，学期末等，定期的に振り返りの場を設ける。 ②　各教科の授業や各種がんばり表等を活用しながら，目標の達成に向けて努力している児童に賞賛する機会を設ける。

１－（３） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①　交通安全教室や自転車免許事業，登下校指導などを通して，交通安全指導の充実を図るとともに，定期的に避難訓練を実施し，安全な道路利用をするなど，児童が自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。 ②　学校栄養士が全校で食育指導を行うことで，児童の食への関心・意欲を高めるように努めるとともに，積極的な情報発信に努める。 ③　生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかける。 ④　体力アップ集会や「体つくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。 ⑤　児童に手洗いや換気など，感染症予防のための行動力を身に付けさせる。	B	【達成状況】 児童　　90.7%（-1.4）○ 保護者　91.5%（-0.4）○ ①　保護者やボランティアと連携し，登下校指導体制を話し合い，交通安全教室を通して，取組の充実を図った。 ②　給食時に，健康委員会の児童の放送や食育だより・献立表により，食に関する情報提供を行った。 ③　「保健だより」により，健康的な生活についての周知を図った。 ④　体力アップタイムでは，児童の運動への関心意欲を高めることができた。 ⑤　手洗いやうがいなど，感染予防のための正しい行動が取れるよう，指導を行った。 【次年度の方針】 ①　安全な登下校について，交通ルールの遵守を呼びかける。 ②　児童の食への関心を高める取組を継続するとともに授業にも参加していく。 ②　生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかけていく。 ④　体力アップ集会や「体つくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。 ⑤　感染症予防指導を引き続き行う。
１－（４） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①　児童が自分や他者の生き方に関心をもち，未来を切り開いていこうとする態度を育むため，総合的な学習の時間において，キャリア教育の取組として「１２歳のハローワーク」等を実施する。キャリアパスポートの振り返りで自分の成長を実感させていく。 ②　係活動や委員会活動の充実を図り，児童の自己有用感を育成する。 ③　児童の創意や提案を生かしながら，クラスの共有遊びなどの時間に，協力して生活をよりよくする活動を仕組んでいく。	B	【達成状況】 児童　　89.7%（+0.2）○ 教職員　100.0%（+5.3）○ ①　キャリアパスポートを活用した振り返りを行うことで，児童は自己の頑張りや他者からの支援に気付き，成長を確認することができた。 ②　各委員会が何をできるか考え実行しており，活動の充実が見られた。 ③　児童の提案でお楽しみ会を開いたり，クラスの共有遊びを行ったりするなど，協力して生活をよりよくする活動ができた。 【次年度の方針】 ①　係活動や委員会活動の充実を図り，児童の自己有用感が醸成されるよう，十分な指導・支援を行う。 ②　キャリアパスポートの振り返りで自身の成長を実感させていく。 ③　児童の思いや考えを生かしながら，学活やクラス遊びなどの時間の充実を図る。

２－（１） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①　児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを伝えることができるよう，ＡＬＴを活用した授業の充実を図る。 ②　児童が英語を使って簡単なコミュニケーションができるよう，昼休みなどにおいてＡＬＴと触れ合う時間を確保する。	A	【達成状況】 児童　　81.3%（-3.5） 教職員　100.0%（±0）　○ ①　ＡＬＴを活用することで，児童が英語に慣れ親しんだ。 ②　授業において，児童とＡＬＴとのコミュニケーションを図った。 【次年度の方針】 ①　ＡＬＴを活用して，児童の発話を促すなど，授業の充実を図る。 ②　授業以外の場面でも積極的に英語を使ったコミュニケーションができるよう，児童とＡＬＴとの触れ合いの時間を増やしていく。
	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①　大谷プランの学習等が「宇都宮学」でもあることと児童が意識できるように授業を展開し，宇都宮の様子や産業を知る学習を通して，宇都宮の特色や良さについて理解させる。 ②　生活科「町たんけん」「大谷プラン」等を通して，宇都宮の暮らしを支える人々について関心を高める。	B	【達成状況】 児童　　85.0%（-2.7）○ ①　各教科の学習や大谷プランで，宇都宮のことを学習し，宇都宮の良さについて理解が深まった。 ②　「町たんけん」や「大谷プラン」を通して，地域の人々と交流を深めることができた。 【次年度の方針】 ①　引き続き，大谷プランの学習等を「宇都宮学」と関連させながら，授業を展開していく。 ②　各教科の学習や「大谷プラン」を通して，宇都宮について興味関心をもつことができるようにする。
２－（２） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①　情報活用能力の育成を図るため，１人１台端末や学校図書館を活用した授業を推進するとともに家庭学習においても活用できるように指導する。 ②　読書に関する意識向上のための読書コーナーの設置や，学校図書館司書と連携し，授業において図書資料を活用できるようにする。 ③　授業参観や行事等で家庭との連携を図り，情報モラル教育及びデジタルシティズンシップ教育を推進していく。	B	【達成状況】 児童　　85.0%（-0.1）○ 教職員　100.0%（+5.3）○ ①　授業の中での１人１台端末が日常化しつつある。発達段階に応じて，使用している。 ②　学校図書館司書と協力し，授業や児童会活動や読み聞かせ等，教育活動の充実のために図書館機能を活用している。 ③　高学年では親学講座，他学年では道徳等で情報モラル教育が関わる内容を取り扱った。 【次年度の方針】 ①　１人１台端末を活用した授業を推進するとともに，ＡＩドリル等を家庭学習においても活用できるようにしていく。 ②　学校図書館司書と連携し，授業において，図書資料を積極的に活用する。 ③　家庭と連携を図るために行事等で情報モラル，及びデジタルシティズンシップ教育を実施していく。

２－（３） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%%以上	①　持続可能な社会の担い手を育むため，総合的な学習の時間において，環境教育の取組として「地球からのメッセージ」等を実施する。 ②　避難訓練時に，世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ，防災について関心を持たせる。 ③　生活科，理科で植物を育てる学習の際に植物や動物を大切にするための意識付けを図る。 ④　ゴミの分別や牛乳パックリサイクルを意識付ける取組を強化する。節電・節水を行うことで，持続可能な社会に貢献している意識をもたせる。また，ＰＴＡや地域協議会と連携し，ＳＤＧｓを推進できるよう努める。	Ｂ	【達成状況】 児童　　90.7%（-2.3）○ 教職員　81.3%（-2.9） ①　総合的な学習の時間において，環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施した。 ②　避難訓練時に，地震や竜巻などの現象について触れたことで，防災についての関心が高まった。 ③　生活科，理科で植物を育てる学習の際に植物や動物を大切にするための意識付けを行った。 ④　ゴミの分別やリサイクル，節電・節水を行うことで，持続可能な社会に貢献している意識の向上を図った。ＰＴＡとの連携は行われなかった。 【次年度の方針】 ①　引き続き，総合的な学習の時間等において，環境教育を行っていく。 ②　世界中で起きている自然現象に触れ，興味関心をもたせるようにする。 ③　引き続き，生活科や理科で，動植物を大切にするための意識付けを図る。 ④　節電・節水など児童一人一人ができることを改めて周知し，意欲的に取り組めるように声掛けをしていく。ゴミの分別を意識付ける取組を強化していく。健康委員会でも，リサイクルの意味等周知をしていく。
３－（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①　校内支援委員会を開催し，特別な教育的支援が必要な児童についての情報共有を図り，素早く指導方法や支援方法について検討する。 ②　児童の実態に応じて，かがやきルームにおける指導の充実や，特別支援学級の児童が通常の学級へ交流及び共同学習を行うなど取組の充実を図る。 ③　２週間に１回，欠席状況・学習・生活の不適応等の児童に関する情報交換を行い，共通理解を図る。	Ｂ	【達成状況】 教職員　100.0%（±0）○ ①　校内支援委員会により組織的に話合いを行い，指導・支援の方法について検討し，改善を図ることができた。 ②　担任やかがやきルーム担当教員と連携したり，特別支援学級児童の通常の学級への交流を充実させたりして，指導に必要な情報共有を行った。 ③　職員間で定期的に情報共有を図ることで，複数の教員で関わり，適切な支援につなげることができた。 【次年度の方針】 ①　校内支援委員会と児童の情報共有を連携させ，迅速かつ適切な児童の支援方法を検討する。 ②　特別支援学級担任やかがやき担当教員と連携し，児童の指導に必要な情報共有を行い，指導支援を充実させる。 ③　欠席状況・学習・生活の不適応等の情報交換を行い，早期対応につなげる。

３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 80%以上	①　全職員が「いじめ防止対策基本方針」について共通理解を図るとともに，言葉によるいじめの未然防止の取組の充実，初期段階からの組織的な対応の徹底など，教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを指導する。 ②　いじめの対応について研修を実施し，教職員の知識技能と意識を高める。いじめゼロ強調月間における取組や「いじめゼロ集会」等の工夫を行うとともに，家庭・地域とより連携を深めながら指導に当たる。また，実施前後に児童指導だより等で情報発信する。 ③　教育相談やアンケートで実態を把握し，気になることは教職員で共有し，速やかに対応する。	Ｂ	【達成状況】 児童　　98.1%（-0.1）○ 保護者　72.7%（-11.7） ①　教職員が研修などを通し，「いじめ防止対策基本方針」等に基づいた対応の理解が深まった。 ②　いじめゼロ強調月間の充実を図った。代表委員会の児童を中心に「いじめゼロ集会」を行い，児童の「いじめはダメ」という意識を高めることができた。 ③　教育相談・アンケートによる実態把握をもとに，問題に対して迅速で組織的な対応を図ることができた。 【次年度の方針】 ①　いじめの対応について研修を実施し，教職員の知識技能と意識を高める。また共通理解のもと，全ての職員が全ての教育活動の中で，いじめ防止および早期対応の指導にあたる。 ②　いじめゼロ強調月間活動や道徳の学習の充実を図り，「いじめはダメ」という児童の意識を高める。 ③　学校ホームページ等で家庭・地域へ「いじめゼロ」への取組の周知を図り，取組への理解と連携を図る。
３－（３） 外国人児童生徒等への適応支援の充実	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 95%以上 保護者 80%以上	①　一人一人の力が生かされ，児童相互に認め合う学級経営と児童会活動等の充実を図る。 ②　「城山東キラリ賞」や「宮っ子心の教育表彰」を活用しながら，日頃から全教職員による認め励ます教育を推進する。 ③　不登校が心配される児童については，定期的に情報交換を実施し，早期に支援策を構築する。	Ｂ	【達成状況】 児童　　98.1%（+1.6）○ 保護者　86.7%（+3.8）○ ①　学習や行事で小集団活動を多く取り入れ，役割を分担し協力することで，相手の良い部分に気付くことができた。 ②　担任以外の教員からの賞賛も含めてキラリ賞を決めるなど，児童を認め励ます指導を行った。 ②　定期的な情報共有の場をもつことで，教職員の児童理解が進み早期に連携を図ることができた。 【次年度の方針】 ①　全ての児童にとって居がいのある学級経営，達成感を味わえる授業づくりに努める。 ②　不登校が心配される児童については，対策会議を実施して早期対応を図るなど，組織的な対応を行う。 ③　児童会活動・行事，日々のあいさつや清掃などを通して，全職員が児童と関わり，児童のよさを認め励ます教育を推進する。

３－（４） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 80%以上	①　児童同士や教師と児童，地域の人材等の資源を生かした人とのつながりの中で，居がいがもてる学級経営を基盤とし，自己有用感と自己実現の喜びを味わうことができる教育活動を実践する。 ②　昼休み等を中心に，担任が児童と共に活動したり，児童会を中心とした活動を計画したりしてよりよい人間関係づくりをする。 ③　縦割り班活動を推進し，児童同士の交流を深める。	B	【達成状況】 児童　　99.1%（+3.5）○ 保護者　81.4%（+0.8）○ ①　児童がめあてをもって日々の授業や行事に取り組むよう指導・支援することで，自己有用感や充実感を味わうことができる機会を多くもつことができた。 ②　「長縄大会」等の委員会主催の行事では，クラスで団結したり目標達成に向けて努力したりするなど，児童が熱意をもって取り組む姿が見られた。 ③　縦割り班活動で異学年交流を推進するとともに，学年に応じて自己存在感を実感できる取組を実施することができた。 【次年度の方針】 ①　日々の授業や行事において，児童がめあてをもち，主体的な態度で取り組むことができるよう指導・支援の充実を図る。 ②　係活動や委員会活動，縦割り班活動の充実を図り，児童が人との関りのよさや成功体験を味わうことができるよう指導・支援を行う。 ③　授業や遊びを通して，互いのよさを理解し認め合うことができる機会を積極的に設定し，活用する。
４－（１） 教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 90%以上 保護者 85%以上	①　日々の授業がより分かりやすくきめ細やかなものとなるよう，学力向上に向けた職員研修や研究授業等の取組を充実させ，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ・ねらいの明確な提示 ・まとめ，振り返り活動の充実 ・学習形態の工夫，個に応じた指導 ②　「考えるためのヒント（思考のすべ)」などを活用し，思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ③　朝の学習「ぐんぐんタイム」の活性化を図り，家庭学習の課題の工夫などにより，基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	B	【達成状況】 児童　　98.1%（+2.5）○ 保護者　84.0%（+0.2） ①　ねらいの提示やまとめ，振り返り活動の充実．学習形態の工夫を行った。 ②　「自分の考えを表現するためのヒント」について共通理解を図った。 ③　朝の学習では，二人体制できめ細やかな指導を行ったり，児童の実態に応じた学習内容を設定したりして，基礎的・基本的な学習の定着を図った。 【次年度の方針】 ①　日々の取組を継続しながら，学力向上に向けた職員研修や研究授業等の取組を充実させていく。 ②　「自分の考えを表現するためのヒント」を活用しながら，思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ③　朝の学習では，プリント学習に特化せず，ＡＩドリルやノート等の活用を充実させていく。家庭学習がんばり週間を活用し，学校と家庭が連携して，基礎基本の定着を図るための学習を意図的に取り入れる。

４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①　学校図書館司書，学校栄養職員，学力向上非常勤嘱託員，かがやきルーム指導員，スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー等と連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。 ②　「チーム城山東」の一員として，報告・連絡・相談を確実に実施するとともに，互いに助け合える雰囲気作りに努め，迅速に組織的に対応できるようにする。	Ｂ	【達成状況】 教職員　100.0%（+5.3）○ ①　教職員が協力し，各機関と連携を図り，学校経営計画の具現化に向け，効率的に業務を行うことができた。 ②　困ったことは相談し合い，分からないことは教え合ったり，組織的に対応したりすることにより，互いに助け合う雰囲気が醸成された。 【次年度の方針】 ①　司書，栄養職員，学力向上，かがやき指導員，SC，SSW 等と連携・協働しながら効果的に業務を進めていく。 ②　「チーム城山東」の一員として，互いに助け合える雰囲気作りに努め，迅速に組織的に対応していく。
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①　学校行事の後には振り返りを実施し，次回に向けて効率的な実施方法等について検討するとともに，校務の精選及び効率化により，児童と向き合う時間を確保する。 ②　出退勤の時間を意識し，効率的な業務遂行に努めるともに，リフレッシュデーを確実に実施する。 ③　学級支援事務と連携協働しながら，効率的，効果的に業務を進めるように努める。	Ｂ	【達成状況】 教職員　100.0%（±0）○ ①　ミライムのアンケート機能などを有効に活用し，計画の見直しを図った。 ②　出退勤打刻やリフレッシュデー等で時間を意識し効率的な業務遂行に努めた。 ③　学級事務支援の協力のもと，業務の効率化が図れた。 【次年度の方針】 ①　児童の実態を考慮し，教職員の意欲向上を図りながら行事等校務の精選及び効率化に努めていく。 ②　本年度の取組を継続しつつ，業務時間の短縮を図っていく。 ③　学級支援事務等と連携し，業務の効率化を図っていく。
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ17　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①　地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため，各部会・教科部会の活動の充実を図り，園内の学校で共通した取組を実施する。便りやホームページ等で紹介し，周知していく。 ②　あいさつ運動における小中の交流を実施し，情報を発信したり，家庭でのあいさつの様子を教師と保護者が情報交換したりしていく。 ③　地域学校園内で授業を公開し，授業の充実や教職員の相互理解を図る。	Ｂ	【達成状況】 児童　　100.0%（+10.3）○ 教職員　100.0%（±0）　○ ①　地域学校園各部会等で連携し，共通の取組を行った。 ②　あいさつ運動は感染症対策により中止となったが，夏祭りや運動会において中学生ボランティアが来校し，本校児童と交流を図ることができた。 ③　中学校の合唱コンクールを参観したり，総合の授業で交流したりした。 【次年度の方針】 ①　各部会・教科部会の活動の充実を図り，園内で共通した取組を実施する。便りやホームページ等で紹介し，周知していく。 ②　あいさつ運動や夏祭り，運動会，冒険活動教室等でさらに小中で交流を図り，取組状況を共有したり，家庭への情報発信に努めたりする。 ③　各部会・各教科部会で園内の教職員の相互理解を図り，授業方法等の充実に努めていく。
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	Ａ18　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。	①　地域の方々，学習ボランティアとの交流や，企業及び関係諸機関と連携した授業を，各学年とも積極的に計画し実施する。「地域協議会」の趣	Ｂ	【達成状況】 児童　　92.5%（-2.2）○ 保護者　90.5%（-4.2）○ ①　（活動推進員）地域コーディネーター

５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	旨を生かしたボランティア募集やＰＲ活動等の活性化により，協力者層の拡大に努める。 ②　「地域とともにある学校」の具現化を図るため，家庭や地域と連携・協力した取組を充実させるとともに，ホームページや掲示物等で情報を積極的に発信する。 ③　校外学習，地域とのふれあい学習，農園活動，教科等（生活科，図画工作　科，家庭科，総合的な学習の時間）などにおいて，地域人材・施設・文化財を積極的に活用する。		と連携・協力 し，学習ボランティアを活用した授業の充実を図った。また企業等と関わった学習を充実させることができた。 ②　７０周年記念事業等で地域協議会委員やＰＴＡ役員とともに会議や行事の検討を行い，状況に応じた対応を行った。 ③　地域人材・施設・文化財を積極的に活用できた。 【次年度の方針】 ①　自治会回覧等を通して，ボランティアを募集するなどして，協力者層の拡大に努めていく。 ②　地域協議会やＰＴＡの意見を参考にして，学校運営に生かしていく。 ③　総合的な学習の時間や生活科等の教科において，地域人材・施設・文化財を積極的に活用していく。
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ19　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・地域 85%以上	①　児童生徒の安全な学習環境の確保を図るため，施設・設備，器具・用具などの定期的な安全点検を実施し，安全で快適な学校づくりに努める。 ②　運動会や感謝の会などの学校行事や PTA 行事の前後など，必要に応じて臨時に安全点検を実施する。	B	【達成状況】 保護者　89.8%（-2.0）○ 地域　100.0%（±0）○ ①　日常的な点検や迅速な修繕を実施し，安全を確保することができた。 ②　学校行事等で施設を利用する児童が体育館や校庭を快適に使用できるよう，環境を整備した。 【次年度の方針】 ①　教職員や児童の安全に生活する意識を高めるとともに，定期的に児童目線での安全点検を実行していく。 ②　運動会等の学校行事やＰＴＡ行事など，必要に応じて臨時に安全点検を実施する。
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ20　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①　１人１台端末操作のスキルアップを研修等で図り，有効に活用しながら，思考力・表現力の向上に努める。 ②　ＩＣＴ支援員との連携や機器の保守に努めたり，教職員同士で情報共有したりして，授業の目的にあったツールとして１人１台端末を活用する。	B	【達成状況】 教職員　100.0%（+10.5）○ ①　１人１台端末を授業で積極的に活用している場面が多く見られた。 ②　学習活動に活用できるツールについて，職員研修を通して，スキルアップを図った。 【次年度の方針】 ①　職員研修等で１人１台端末のスキルアップを図る。 ②　ＩＣＴ支援員との連携や機器の保守，教職員同士で情報共有を行い，授業の目的に合わせて１人１台端末を活用する。

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ1　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 80%以上	①　継続的な指導に加え，ＰＴＡ，地域協議会と連携し，「大人から進んであいさつする」活動を家庭や地域でも実践していく。 ②　長期休業明けに代表委員を中心にしたあいさつ運動を実施し，振り返りを家庭と共有する。 ③　下校時の一斉あいさつを各学年当番制で行ったり，あいさつ強調期間を設けたりすることで，あいさつの意識付けを図る。	B	【達成状況】 保護者　85.5%（+9.5）○ 地域　83.3%（+3.3）○ ①　ＨＰやたよりなどで，あいさつ運動の取組の様子を取り上げ，家庭や地域に理解と協力を伝えた。 ②　あいさつ運動を実施した際は，振り返りを家庭と共有した。 ③　各学年当番制であいさつを実施し，意識付けを図った。 【次年度の方針】 ①　あいさつ運動・強調期間の取組を行い，あいさつの活性化と定着を図る（あいさつカードの配付・キラリ賞表彰） ②　ホームページや，便り等であいさつの取組を地域や家庭に周知し，理解と協力を求める。
	Ｂ2　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①　生活のきまり（「よい子のやくそく」）やマナーについて，児童・教職員・保護者の共通理解のもと，決まりを守るよう指導し，定期的に振り返りを行う。生活当番活動等を行い，具体的な目標に向けて連携して取り組む。 ②　朝の会や帰りの会等で生活目標を振り返る活動を継続することにより，児童の主体性を高める。	B	【達成状況】 児童　90.7%（-0.5）○ 教職員　100.0%（+5.3）○ ①　「よい子のやくそく」を元に，年度始め・長期休業明けに約束事の確認を行った。 ②児童指導を中心に，目標の反省や改善点などを話し合い，担当者が交代でその内容を昼の放送で伝えた。 【次年度の方針】 ①　「よい子のやくそく」について職員は共通理解を図り，同一歩調で指導に当たる。また児童と定期的に「よい子のやくそく」の確認を行い，児童がしっかりときまりを理解できるようにする。 ②　生活目標について朝や帰りの会で，指導したり児童が振り返りをしたりすることを継続的に行い，児童が主体的にきまりやマナーを守ろうとする態度を育てる。
本校の特色・課題等	Ｂ3　児童は進んで本を読んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 75%以上	①　読書の時間や必読図書の入れ替え，定期的なボランティアによる読み聞かせ，ビブリオバトルなどにより，読書に対する興味関心を高める。 ②　市立図書館学校支援室の有効活用や，学級図書の充実，読書ノートの活用し，家庭と連携した家読の実践等，児童と本をつなぐ取組を推進する。	B	【達成状況】 児童　80.4%（／）○ 保護者　65.2%（／） ①　読書の時間の確保やボランティアによる読み聞かせ，読書月間や学期内での図書委員会による読み聞かせを取り入れ，読書に対する興味関心の向上を図った。 ②　市立図書館学校支援室の活用や家読の実施を行った。 【次年度の方針】 ①　今年度の内容を継続しながら，さくら連絡網での便りの通知に加えて，ホームページ等で学校での取り組みについての情報を発信する。 ②　読書ノートの活用状況を定期的に確認したり，長期休業を利用しての家読を継続したりする。

	Ｂ４　教職員は，児童理解を基盤に学級経営の充実を図り，学級内の人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①　Ｑ－Ｕ検査等を有効活用し，児童理解と信頼関係に根差した居がいのある学級づくりを目指していく。 ②　各学級に「ふれあいコーナー」を設置し，児童相互の認め合いの場として活用する。 ③　「ありがとうの木」等を教室に掲示し，互いに励ましあう言葉など，温かい言葉が使えるよう常時指導する。 ④　児童のよさや成長など，小さな変化を保護者に伝える。	A	【達成状況】 児童　　97.2%（+6.0）○ 保護者　82.0%（-8.1） ①　Ｑ－Ｕ検査活用研修を実施し，児童理解を深め，学級経営の充実に努めた。 ②　自主学習を紹介するなど，「ふれあいコーナー」を活用して児童のよさを認めあうことができた。 ③　教室掲示のありがとうの木には，人権動画の感想を掲示したり，あったか言葉を掲示したりして，温かな言葉に触れる場面を設けた。 ④　保護者との連絡を密にし，情報の共有に努めた。 【次年度の方針】 ①　児童理解と居がいのある学級づくりを目指し，Ｑ－Ｕ検査の活用や，教育相談への丁寧な対応などを活用していく。 ②　各学級に「ふれあいコーナー」を設置し，児童相互の認め合いの場として活用する。 ②　道徳の授業や行事等などの振り返りで「ありがとうの木」を活用し，温かい言葉が使えるよう指導していく。 ④　児童のよさや成長など，小さな気付きを保護者に伝えていく。学校だより，ホームページ等で学校の様子を保護者に伝えるようにする。
	Ｂ５　児童は，高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①　授業や学校行事で児童が高齢者や学校支援ボランティアと関わることで，感謝の気持ちをもたせる。 ②　道徳や学級活動の授業等で感謝の意識を高められるようにする。	B	【達成状況】 児童　　93.5%（／）○ 保護者　91.5%（／）○ ①　登下校や大谷プランの授業，総合的な学習の時間における高齢者福祉施設訪問の実施により，高齢者やボランティアの方々に感謝の気持ちをもたせることができた。 ②　道徳等の授業において，実生活と関連付けて考えさせることで，感謝の気持ちをもつことや相手の立場に立つことの大切さに気付かせることができた。 【次年度の方針】 ①　高齢者や学校支援ボランティアとの関わりを継続して実施し，感謝の気持ちが育まれるような機会を増やしていく。 ②　道徳や学級活動，総合的な学習の時間の授業等で感謝する意識を高めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】
・全４５の評価項目のうち，４０項目で数値指標を達成することができた。
・肯定的回答が市の平均よりも高い項目は，低い項目よりも多くなっている。
・児童の肯定的回答は，市の平均と同程度であった。
・児童は，学級経営やいじめ指導，学力向上への取組を肯定的に捉え，明るい校風の中で安心して生活している。地域からも，児童の思いやりやマナーのよさ，学校の環境整備や経営方針に対し高い評価を得た。

【目指す児童の姿】
・Ａ２「思いやりの心」，Ａ４「健康や安全」については，児童，保護者，地域住民，教職員のいずれからも 90%以上の高い肯定的回答を得た。
・学習に関する項目において，児童の自己評価は市平均と同程度か，やや下回る結果となった。一方で，児童は教職員による「分かる授業」や「きめ細やかな指導」を肯定的に捉えている。しかし，デジタル機器や図書を活用して必要な情報を収集して考えるなど，主体的に学習に取り組む点については，児童・保護者共に肯定的回答は 81%～88%と低い。
・生活に関する項目において，児童の自己評価は多くの項目で 90%を超える高い数値を示した。一方で，「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」点については，児童は 86.0%，保護者は 83.8%と低かった。

【目指す学校の姿】
・Ａ１１「いじめ指導]，Ａ１２「不登校を生まない学級経営」，Ａ１３「活気ある学校」，Ａ１４「分かる授業」については，児童から 97%以上の高い肯定的回答を得た。
・Ａ１１「いじめ指導」について，児童の肯定的回答は 98.1%と非常に高く，学校生活における安心感が示されている。一方で，保護者の肯定的回答は 72.7%に留まった。
〇Ａ１７「小中一貫・地域学校園の取組」について，児童の肯定的回答は 100%に達した。５学年での４校合同冒険活動教室をはじめ，中学生による行事（夏祭り・運動会）でのボランティア活動，中学校合唱コンクールの鑑賞など，多様かつ充実した交流機会の成果であると推察される。

【本校の特色等・評価項目Ｂ１～Ｂ５】
・Ｂ１「あいさつ」，Ｂ２「きまりやマナーを守る」，Ｂ５「高齢者に対する感謝やいたわりの心」の３項目については，全て数値目標を達成した。特にＢ５「高齢者に対する感謝やいたわりの心」については全ての対象で肯定的回答が 90%以上と高評価だった。
・Ｂ３「進んで読書」については，教職員の肯定的回答が 100%に達したが，児童は 80.4%，保護者は 65.2%，地域住民は 75.0%であった。学校では読書の時間の設定による一定の成果が見られると考えられる。

7　学校関係者評価

・家庭や学童での読書離れが見られ，デジタル端末や漫画に興味が偏る傾向にある。読み聞かせへの反応は良く，本への関心は高い。読書環境をいかに整えていくかが課題となる。大人が本を読む姿を見せること，親子読書の推奨，家庭へ本を持ち帰って読書をした際には感想を書くことなどが有効と考える。
・Ａ１８「地域との連携について」の地域住民の肯定的回答が低いことについて。ＰＴＡや地域協議会との双方向の連携・情報発信を強化したい。数回の授業参観だけで学校評価を行うことには無理がある。粘り強く情報発信を行ってほしい。

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

【学習指導】
・教職員間で連携し「宇都宮モデル」による授業改善を継続するとともに，長期休業明けには「学習のきまり」を再確認することで学習起立を徹底し，落ち着いた学習態度の育成を図る。
・発達段階に応じた１人１台端末の活用スキル向上を図り，児童が自分の考えを多様に表現できる場を広げることで，思考力・判断力・表現力を育む。
・学校と家庭の連携を強化し，基礎・基本の徹底，児童が主体的に学ぶ習慣を身に付けられるよう努める。
・魅力ある学校づくり地域協議会を軸に，地域や企業と連携した体験活動の充実や読書活動の推進，郷土愛の育成を図り，教育活動全体のさらなる充実を目指す。

【児童指導】
・学級経営の基盤として，児童一人一人が自分の役割や価値を実感できるよう努める。縦割り班や委員会活動での異学年交流を深め，互いの良さを認め合う心を育む。
・教職員研修を強化し，いじめの早期発見・早期対応を組織的に徹底する。また，定期的な教育相談やアンケート，いじめゼロ強調月間といった具体的な取組をホームページや各種たより等を通じて発信し，学校の指導体制や未然防止の取組に対する保護者の理解と安心を得られるよう努めていく。
・何事にもあきらめずに挑戦し，がんばり抜く児童を育成するために，結果のみを評価するのではなく，目標に向かって根気強く努力する過程を称賛する機会を増やす。

【健やかな体の育成】
・学校・ＰＴＡ・地域と連携した交通ルールの遵守指導を継続し，登下校時の安全確保に努める。また，正しい姿勢の保持や感染症予防などの保健指導を通じて，自分の身を守り健康に過ごすための安全意識の向上を図る。
・「体力アップ集会」や「体つくりカード」を積極的に活用し，児童が目標をもって運動に取り組む環境を整える。また，食育や保健指導（正しい姿勢・感染症予防）を通じて，生涯にわたる健やかな体づくりの基礎となる意欲的な生活態度の定着を図る。